

1- (1) 教育DXに係る新たな取組みについて

① 「学校と保護者を繋ぐ連絡アプリ」の導入

1) 概要・目的

- ・これまで、
 - ・ 保護者から学校への欠席連絡や検温報告
 - ・ 学校から保護者への各種お便りなど、電話や紙で行われてきたやりとりをデジタル化し、
保護者の利便性向上と教職員の働き方改革を推進する取組。

2) 実施範囲

- ・ 6月より、全ての市立小・中学校、特別支援学校、幼稚園で運用を開始する。

3) 期待する効果

○保護者

- ・ 欠席の連絡などが、朝の限られた時間に電話することなく、「いつでも」、「どこからでも」、「ご自身のスマホ等」で、「簡単に」連絡を済ませられ、利便性の向上が期待できる。
- ・ 児童生徒経由で受け取っていたお便り等が、漏れなく確実に受け取ることができる。

○教職員

- ・ 多忙の要因の1つであった朝の電話対応がなくなる。
- ・ 保護者が入力した欠席等の情報が校務のシステムなどへワンストップで連携され、教職員による日々のシステムへの入力作業が不要になる。
- ・ お便りなど、これまで印刷、仕分け、配布していたものが、ペーパーレス化され、デジタルで一斉配信できる。

⇒ これらを通じ、教職員の負担軽減が図られ、子どもたちにより深く向き合う時間や授業準備の時間を確保できる。

⇒ 因みに、R3年度に柳津小で行った実証結果では、

- 保護者満足度 85.4%
- 教職員の毎朝の負担軽減 学校全体で 503分→149分 (△354分 △70.4%)

②「ICTを活用した子どもの健康サポート」の実証事業

1) 背景

- ・本市では、令和3年12月に、(株)文溪堂と連携協定を締結し、いじめ防止や不登校対策として、デジタル技術を活用した取組みの共同研究を進めてきた。

2) 概要・目的

- ・児童生徒が、朝の会、帰りの会で、今の体調と気分をタブレットで選択し、更に、先生に相談したいことがあるときは、「きいてほしい」ボタンを押して、「学校のこと」、「ともだちのこと」などの種別と、聞いて欲しい先生を指定して発信する。
- ・これにより、教員が一人ひとりの心や体のサイン（変化やアラート）を瞬時にキャッチし、教員の経験によらず、エビデンスに基づき、学校がチームとなって、適切なタイミングで、適切なアクションをする取組み。

⇒ 令和4年6月 陽南中学校、柳津小学校の2校で実証開始

⇒ 令和5年1月 全ての市立小・中学校に実証範囲を拡大予定

3) その他期待する効果

- ・対面では、「先生に相談したい」と自分から言い出すことが苦手な児童生徒が、伝えやすくなる新たな機会が設けられる。
- ・登校していない児童生徒とも、このツールを通して教育活動に参加できる機会を増やし、日々のコミュニケーションが図れる。
- ・既存の校務事務のシステムで保有する児童生徒に関する各種情報に、心と体の様子の情報を加え、様々な観点で分析できる など、
⇒ これらを通じ、よりきめ細やかな、個に応じた指導に繋げる。